

『トライアスリートになった日』

テルヤ電機株式会社

代表取締役 江川 和宏

(前号よりつづく)石垣島では、トランジット*の経験をするのがひとつの目的だったのですが、思ったようにはいかず、焦って無駄な動きが増えて、逆に時間がかかってしまったのは大きな課題となりました。

*トランジット……トライアスロンで、スイム→バイク→ランに移るとき、着替えたり装備を付け替えたりすること。トランジットの間も競技時間に含まれ、いかに時間を短くするかが重要なポイントとなる。

その後、6月のケアンズでのアイアンマンレースまでは、3種目をそれぞれトレーニングするつもりが、なかなか思うように時間がとれずにととう日本を飛び立つ日を迎えてしまいました。バイクを慎重に分解して専用の輸送ケースに収納して、成田空港へ向かう途中では、レースでフィニッシュした自分の姿をイメージトレーニングしていました。

日本は梅雨の季節ですが、南半球のケアンズは夏から秋に向かいちょうど気持ちのいい季節です。空港に出迎えてくれた福島さんとは9か月ぶりの再会でした。現地では福島さんの協力をいただき、事前準備を済ませて大会当日を迎えました。

期待と不安のスタート！

2度目のトライアスロンは世界ブランドの「アイアンマンレース」、しかもロングディスタンスと贅沢すぎます。午前7時、日の出と同時にスイムがスタートしまし

た。体格のいいオーストラリア人とのバトルに巻き込まれないように後方からのんびりとスタートしました。しかし、オーストラリア人のトライアスリート達は速い速い、あっという間に置いていかれてしまいました。目標は完走なので、マイペースを崩さずに泳ぎ続けます。

途中から潮の流れが変わってしまい、予想よりも30分も時間をロスしてしまいましたが、無事に最初の種目のスイムを終えて、トランジットエリアへ。

トランジットエリアでは、ウェットスーツを脱ぐのに少々手間取りましたが、バイクシューズ・ヘルメット・サングラスを装着して、いざ2種目目のバイクへ乗り込みます。

スタート直後は軽快にペダルを回してスピードオーバー気味。交差点で車を止めてくれている警察官に「Thank you!」と手をあげると、警察官も「Good job! Good job!」

と返してくれて、だんだんとテンションが上がってきます。

バイクは基本的には一度乗ったら、バイクフィニッシュまで一度も降りることはありません。1時間毎に持参しているエネルギー補給用のジェルを飲み、給水はエイドで受け取ります。エイド手前でスピードを落として、飲み終わった空のボトルを捨て、新しいボトルを受け取ります。その繰り返しです。

組合員の横顔紹介

バイクの180kmという距離は、東京からでしたら東名高速道路で静岡市まで行ける距離です。そこをバイクのペダルを回して行くわけですから、気が遠くなるような時間と距離です。予想では7時間ほどの予定です。海岸線の景色がきれいなコースなので、気も紛れますが、沿道での応援はほとんどないので、気力との勝負です。

そんなに長くバイクに乗っていて、お尻とか痛くならないのかとよく聞かれます。

バイクパンツには厚手のパットが入っているので、意外と長時間乗っていても、私の場合は大丈夫です。ただ、身体が同じ姿勢で固まってしまうので、時々伸びをして動かないとカチカチになってしまいます。

折り返し地点の手前で先行する福島さんとすれ違い、手を振って合図をしましたが、後で聞いたら「いつもニコニコしている江川さんが辛そうな顔をしていたので、大丈夫か心配した」そうです。後半は疲労もピークに達していたので、楽しくサイクリン

グという雰囲気ではありませんでしたが、パンクなどのトラブルもなく、ほぼ予想通りの7時間18分でバイクフィニッシュ。

いよいよ最後の種目ランに突入です。ランニングシューズに履き替え、ヘルメットをキャップに、サングラスを替えてスタートです。7時間以上も足を地面につけていなかったの、フワフワしたような違和感がありましたが、思ったよりも走れる感じでした。

10kmほど走ったところで、福島さんに追いつき、しばらく併走して会話を交わしました。福島さんはバイクで2度パンクしたことと、不安のあった膝のダメージが大きいらしく、かなり辛そうでしたが「フィニッシュゲートで会いましょう」と言い残して先に行かせてもらいました。



感動のフィニッシュへ！

20km 地点を過ぎたあたりで制限時間に間に合うことが確信できたので、少し気が抜けてしまったかもしれません。疲労で棒になった足を一步、一步前に出すことで精一杯です。

自分では走っているつもりですが、周りから見たら歩いているのと同じくらいのスピードだったと思います。

残り 15km からはケアンズの市街地に入ってくるので、沿道の応援が賑やかになってきます。再びテンションが上がってきました。応援に手を振るだけの元気は残っていませんが、声援で背中を押してもらい、とにかくフィニッシュを目指します。

そしてとうとうフィニッシュゲートが視界に入ってきました。最後の 50m はレッドカーペットが敷かれたウィニングロードが準備されていました。大音量でロックミュージックが鳴り響く中、DJ が私の名前を呼んでくれていましたが、興奮のあまりほとんど耳に入ってきません。ゆっくりウィニングロードを楽しみながら沿道の観客とハイタッチをして、フィニッシュゲートをくぐりました。アイアンマンの完走メダルを見つめて、これのために今まで頑張ってきたのだなあ感慨もひとしおです。

14 時間 58 分 26 秒。長い旅でした。

決して自慢できるタイムではありませんが、初トライアスロンを完走したという価値はあったと思います。人間やると決めたことは、努力をすることによって大抵のことは出来るものだと実証できました。



トライアスロンと仕事の共通点

そしてもうひとつ、これは仕事にも結び付きますが、時間のマネジメント能力が身についたということです。仕事も忙しい中、3 種目のトレーニングの時間を作らなくてはなりません。1 日 24 時間をどう配分して時間を使うかがとても勉強になります。トライアスリートに経営者と医師と弁護士が多いというのも頷けますね。

こうして 2012 年最大の目標を成し遂げ、トライアスロンの片隅に滑り込むことができました。きっかけを作ってくれた福島さん、私のわがままに付き合ってくれた家内や応援してくれた友人たち、理解を示してくれた社員の方々、そして大会スタッフとボランティアの方々にも感謝の気持ち伝えたいと思います。ありがとうございました。

次回はもっとしっかりと準備をして、余裕をもって完走できるように頑張りたいと思います。